



みんなで
協働 進めよう!
のまちづくり



令和6年度 2月22日学生 & 高校生まちづくりコンペティション

五戸町における地域との協働による 福祉ニーズ調査と福祉活動

八戸学院大学 大木ゼミ

3年 白戸祐吏

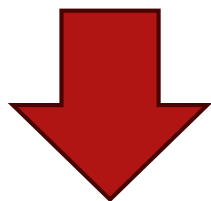
3年 小橋亮太



みんなで
協働

なぜこの事業を計画したのか？

全国のおよそ6割の地域が過疎化しており、様々な地域福祉の課題が生じている。



地域の福祉ニーズを調査し、**解決の一助**となるような取り組みを実施したいと考えたため。

五戸町で活動した理由

1. 「五戸まちづくりワールドカフェ」というまちづくり活動を知ったため。
2. 五戸町において過疎化が進んでいるとの情報を得たため
3. 大学から無理なく通いやすい場所であったため。



「五戸まちづくりワールドカフェ」とは
職業や立場は関係なく、それぞれの関心ごとやテーマを持ち寄って会話し、仲間を見つけたたり、実際に行動に移してみたりして世代を超えたつながりをサポートしている。

五戸町における福祉ニーズ調査

街頭アンケート

<五戸まつり>

8月30日 14:00～18:00

五戸町中心街

9月1日 14:00～17:00

五戸町中心街

<三大肉フェスタ>

10月26日 10:00～12:00

五戸町中心街

街頭アンケート以外

<ワールドカフェ>

9月28日 参加者の方に調査実施、
配布依頼

<広報ごのへ>

五戸町の広報誌(10月)でQRコード
により実施

アンケート調査 ＜三大肉フェスタ＞

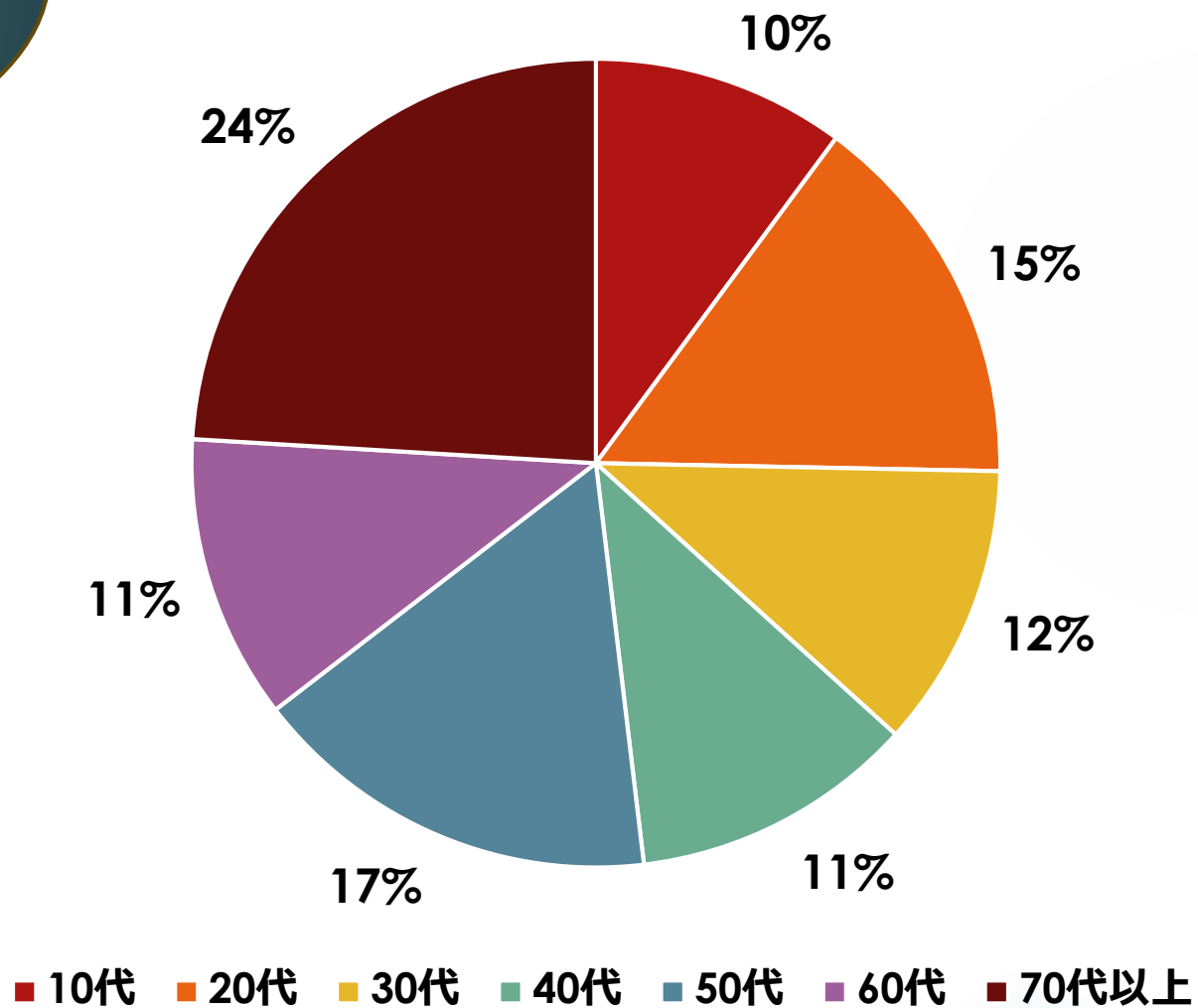


アンケート調査 ＜五戸まつい＞

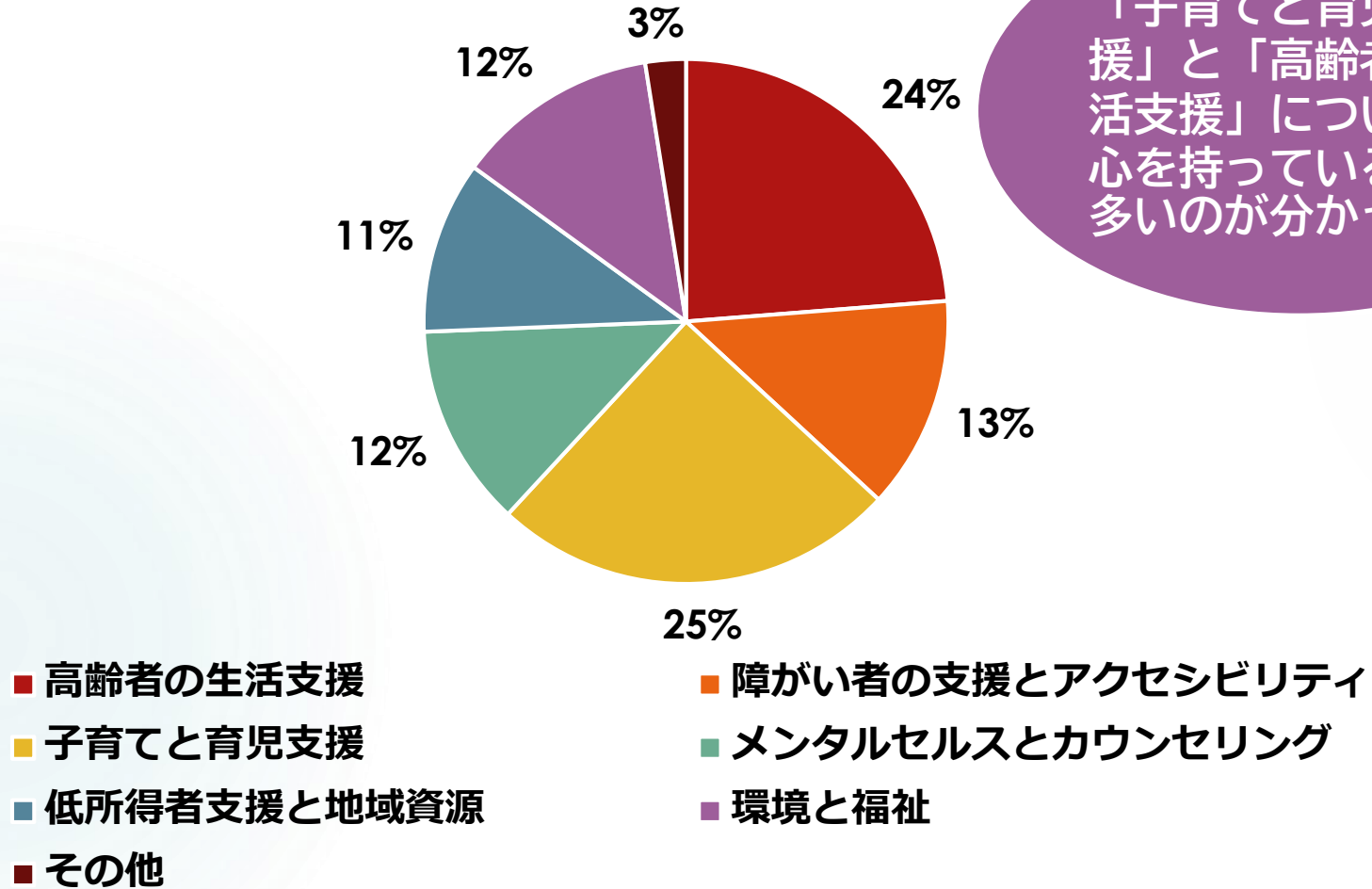


調査に回答して
いただいた方は
70代以上の方が
多かった。

年齢



関心のある福祉テーマ

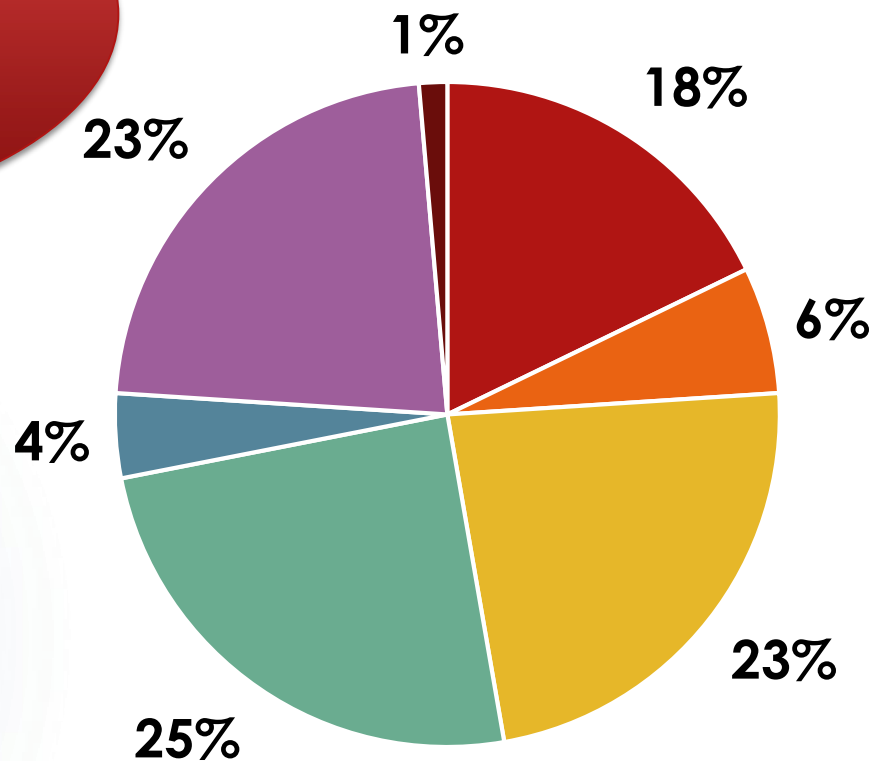


「子育てと育児支援」と「高齢者の生活支援」について関心を持っている人が多いのが分かった。

分析結果から、年代や関心事によってニーズが変わってくるため、「地域全体で共有されるニーズというものには存在しないのではないか」と考察された。

アンケート調査の中でシニア世代の温かさや想いが伝わり、シニア世代の語りを聞きたいと考えた。

イベントの対象者



障がい者の割合は低いですが、障がいのある方の理解や関心を高める必要があると考えた。

■ 高齢者 ■ 障がい者 ■ 子育て中の親 ■ 学生や若者 ■ 低所得者層 ■ 地域の一般住民 ■ その他

イベントの準備【シニア世代の語り】

- ◆ 地域の方々の**主体的な交流**
- ◆ 地域で暮らしている方々が**まちづくりの担い手**になること



シニア世代の語りには、ワールドカフェで交流を深めた赤坂良悦氏やアンケート調査の際に交流をしていただいた「趣味の店」の方々に依頼した。打ち合わせをし、ご協力いただけることになった。

イベントの準備【障害のある方の語り】

- ◆ 施設に入所している方の想いややりがいを語ること
- ◆ 働いている姿を見ていただくこと



障がいのある方への理解や関心を高めること

「やまばと寮」「移山寮」に事業の説明をし、ご協力いただけることになった。

※助成金の対象ではないが、「やまばと寮」には、利用者の方々が製造しているお弁当、「移山寮」にはアップルパイを、参加者に提供していただけることになった。

「趣味の店」におけるイベントの打ち合わせ



『協・共・教・郷』

～五戸町におけるシニアの方々のまちづくり活動と障がいのある方の社会参加～



12月14日 12時～14時

倉石コミュニティセンター（和室）で実施し、45名の方に参加していただいた。

イベントの構成

- ◆「趣味の店」の方には、お店や作品の紹介、創作活動の楽しさを語っていただいた。
- ◆「やまばと寮」の方には、施設の仕事内容、想い、やりがいなどを語っていただいた。
- ◆赤坂良悦氏には、帰郷以前以後の五戸町の変化、自身が携わっている活動、想いなどを語っていただいた。
- ◆「移山寮」の方には、将来の目標、過去の経験、想い、施設紹介（施設の方）を語っていただいた。

赤坂良悦氏の語り



「趣味の店」の語り

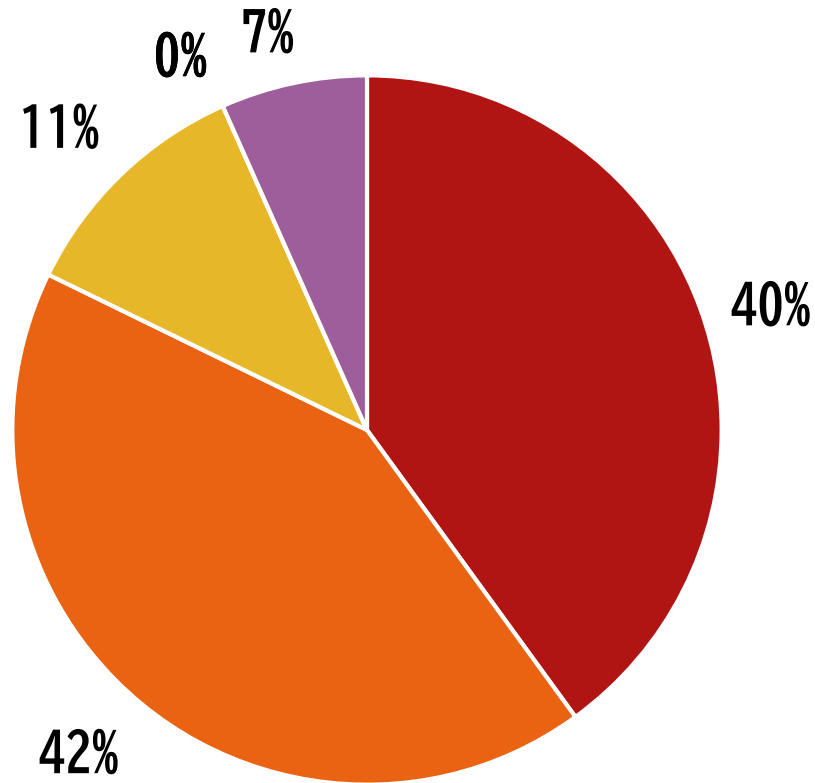


イベントの報告（ワールドカフェにおいて）



イベントの内容

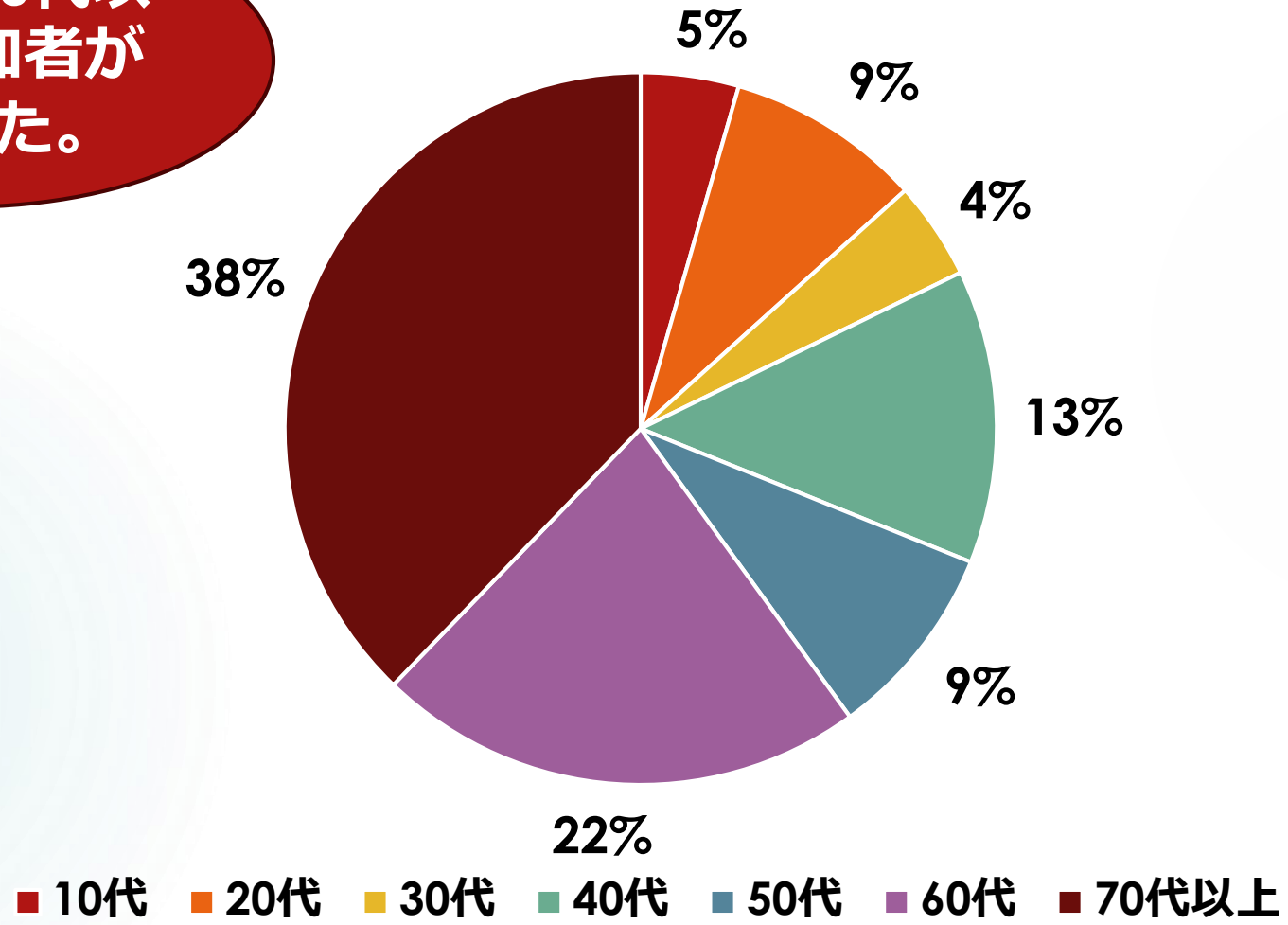
「よかった」、
「とてもよかった」が約8割と
多かった。



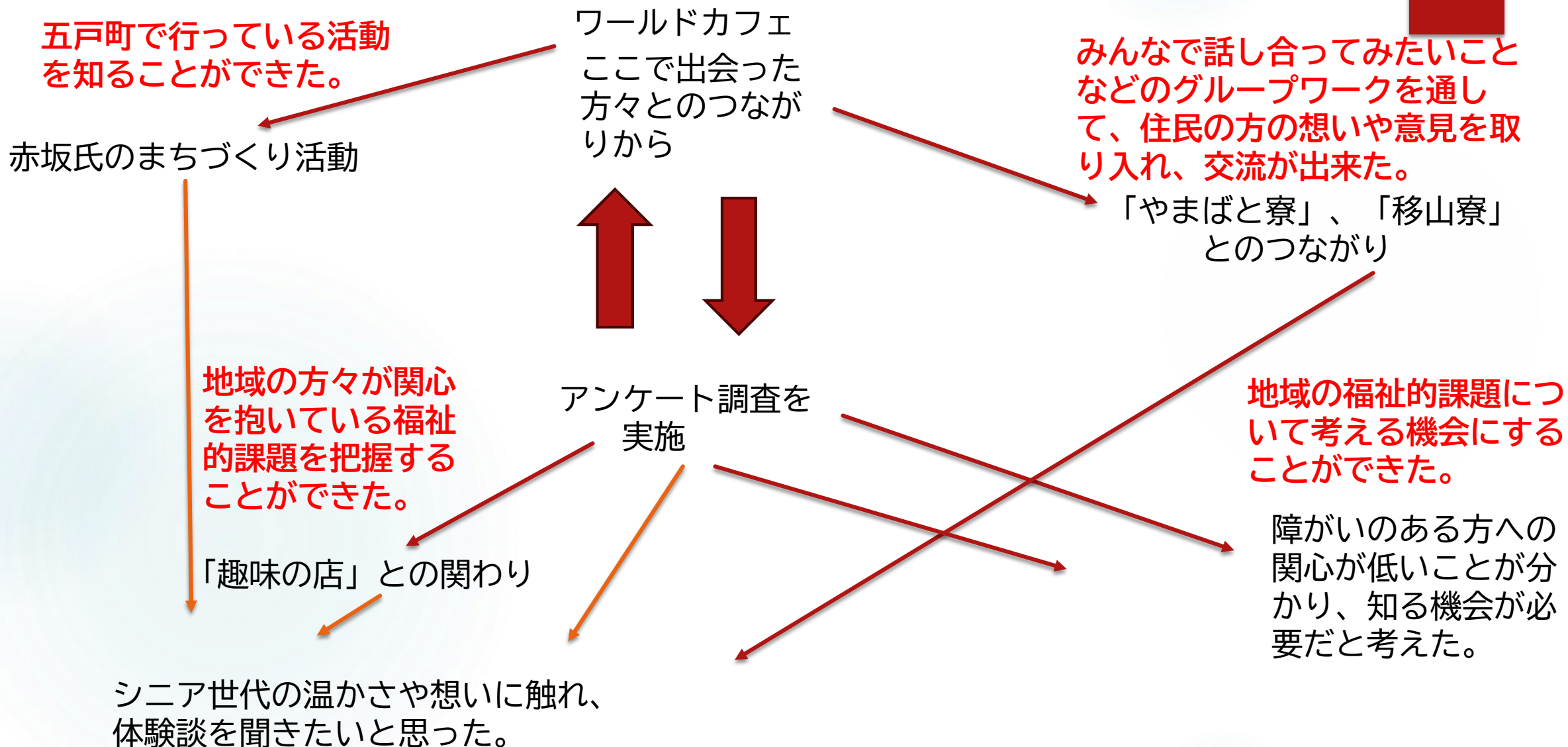
- とてもよかった
- よかった
- 普通
- あまりよくなかった
- よくなかった
- 未回答

参加者の年齢

60代や70代以上の参加者が多かった。



<事業の成果・効果>



参加者の声

語りをしていただいた
方と地域住民との連携

障がいのある方への理解

- ◆ 協働できそうな人が見つかった。
- ◆ 前向きに活動できればという想いが湧いてくる。
- ◆ 自分も参加してみたいと思った。

ひきこもりの家族がいて、
ヒントになれば。

生き方について考え直すこ
とができた。

交流をもつと考えたい。

- 自分の想いを伝える場になった。
- 障がいのある方の接し方が同じで良いことが分かった。
- 「やまばと寮」、「移山寮」の働く姿を見ることが出来て良かった。

事業の成果

シニア世代や障がいのある方が、地域で行っている活動や想いについて交流する機会から伝える事業にできた。



様々な地域の方と出会い、イベントに関するだけでなく、多様なお話を聞くことができた。



- 本事業を通して、まちづくり活動の促進やそれぞれの課題解決の手がかりになりうる事業を実施することができた。
- それぞれの取り組みや想いを知ってもらうことができ、イベント終了後に交流している姿を見ることができた。
- 事業を通して、若年層の方の参加者が少なかったこともあり、若年層を意識した持続した取り組みが必要だと考える。

今後の展望

- ★今回の事業でのつながりを大切にし、来年度も「五戸まちづくりワールドカフェ」に参加する。
- ★それぞれが考える課題を含め、五戸町においての障がいのある方の理解、主体的な連携や住民のまちづくり活動が促進されると期待できる。

ご清聴ありがとうございました。